

## 2022MFJ 全日本スーパーモト選手権第2戦 HSR 九州参戦レポート

MFJ 全日本スーパーモト S10Open クラス

MERCURYPRODUCTS & Husqvarna 東名横浜 #10 薄井保彦

5月15日 HSR 九州で開催された MFJ 全日本スーパーモト選手権第2戦に参戦しました。

14日の前日練習は3本の走行枠がありましたが前日までの雨の為、路面は乾いていましたがダートは無し  
のターマックのみの走行。高速コーナー主体の HSR 九州は気持ちよく走れます。1本目から徐々にペースが上  
がり、今までよりスプロケをロングに変更。結果、コーナー間でのギアのつながりも良くなりました。

ただ、1走行目途中からシフターが効かなくなるトラブルが発生。2走行目までの時間でチェックすると外  
装を交換した際に配線を挟んでしまっており、シフターの配線が断線していました。大崎監督に配線を修理し  
てもらおうとシフターは正常に作動。レース時ではなく練習時に発生してくれたのはラッキーでした。

15日レース当日。2か所あるダート走行有りのレースになるとアナウンス。朝一でコースを歩いてダート  
の状況を確認します。



レイアウト的には特設のスポンジバリアーで作られた左コーナーの1コーナーを曲がりダートセクションへ。  
ダートで右ターンをして4連のフープス。そこから右にターンして一旦アスファルトへ。すぐに180度ターン  
して再びダートへ入り右ターン後にテーブルトップそのあと小さいジャンプそして右にターンしてアスファル

トに戻るといった内容。ダートも曲者ですが一旦アスファルトに出たの180度ターンが難易度高めです。

2か所のダートの進入は外バンクと内側には軽いギャップがあり外の方が走り易そうですが、イン側の近道を通った方が速そう。ただ、スタートの混乱が予想されるのでその際はアウト側に居て回避するのが得策かな？

公式練習ではその辺りを踏まえラインを何種類か試します。

そして予選タイムアタック。ターマックは気持ちよく走れて特に遅い感じはないけどダート部分とさらには第1ダートと第2ダートの間のアスファルト区間が全く対応しきれません。ダートで1度転倒しますが特にダメージは無くタイムアタック終了。順位は12台中12位。いや、遅かったなとは思いましたがここまでとは正直ショックでした。とはいえ前2人は1秒以内。少なくともシングルフィニッシュは果たしたいところ。

今シーズンからレギュレーションが変わり2ヒート制の1ヒート目の決勝レース。



まあ、後ろに誰もいないので後は抜くだけ。ある意味気楽です。

レーススタート！スタートで1台抜き、ダートで1台抜いて10番手。その後苦手なダート出口で1台、また1台と抜かれ再び最下位。転倒者がいた為1つ順位を上げて11位。

ところが残り3周程の所でブレーキの利きが怪しくなります。

新車なことをいいことにノーマルパッドで走っていたのですがそれが良くなかったのかどんどんブレーキが

利かなくなり3回ほどオーバーランをしてしまいます。

ハイスピードコースでのブレーキトラブルはかなり深刻でしたが後続車両との間隔が開いていた為、なんとか順位を守ったまま11位でフィニッシュ。



レース後フロントのパッドを確認するとパッドにヒートスポットが出来ていました。パッドの慣らしをする時間が無い為、中古のCLブレーキのパッドを装着。ノーマルパッドはゴミ箱へ。第2ヒートに挑みます。

11番グリッドから第2ヒート。

第1ダートでの混乱をアウト側から交わして9番手に浮上。前の集団にも追いつき前3台後ろ3台の中前方集団に食らいつきます。

ブレーキは絶好調。もしかしたらタイムアタックからパッドを替えていればもう少しタイム良くなったのかも。やはり慣れたブレーキフィーリングは圧倒的に走り易いです。

レースはそのまま硬直状態で抜くまでは行けずもう少しといったところで9位にてレース終了。



両レースとも川崎選手の後ろでした。

今回、2ヒート目のタイムはタイムアタックから4秒早く走れており、完全にダートでの対応不足が敗因でした。また、ブレーキトラブルもノーマルのパッドで走ってしまった自分の選択ミスもあります。タイムアタックから2ヒートのタイムが出せていたら大きく結果が変わっていたと思います。

今回もサポート企業様のお陰で状態の良いマシンで走らせてられています。そして、アフターパーツの重要性を再認識いたしました。

反省点が多くありましたが次回6月12日のエビスサーキットでの第3戦に向けて気持ちを切り替えて調整していきます。

引き続き応援、サポートよろしくお願いいたします。